

令和6年度 生活科 授業改善推進プラン

大田区立出雲小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・花や野菜を育てる活動を通して、植物の生長の様子や変化に気付くとともに、親しみをもって大切にすることが、できるようになった。
- ・おもちゃづくりやものづくりを通して、試行錯誤をしたり、授業協力者に助言をもらったりしながら、よりよいものにしようという気持ちや態度が育ってきた。
- ・自分自身の成長に気付くとともに、自分の成長には様々な人々が関わっていることに気づき、感謝の気持ちを伝えることができた。

(2) 課題

- ・言葉で相手に分かりやすく表現しようという意識や技能が十分に身に付いていないため、表現方法を具体的に提示し、学習に活用できるようにする必要がある。
- ・活動や体験の中で、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりに関心を持てない。体験的な活動を意図的に計画する必要がある。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・朝顔の観察、生き物探しの活動を設定し、植物や生き物に触れ、よさや特徴に気付けるようにする必要がある。 ・四季の特徴を生かした遊びを通して、四季の特徴やよさに気付ける必要がある。	・植物や生き物の変化や成長の様子ポイントを意識させるため、観察の際に視点を明確化する。 ・思いや願いの実現に向けて、「何をするのか」「どのようにするのか」と、活動のめあてを立て、学習の中でその都度めあてを確認し、意識させる。	・積極的に体験活動や地域の人々と関わりをもつ活動を意図的・計画的に取り入れる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・おもちゃづくりでは、それぞれの素材について、何度も触れて遊ぶことで、動きの面白さや不思議さに気づき、工夫へとつなげていく必要がある。	・授業では、「見る」「聞く」「触る」「嗅ぐ」など感覚をはたらかせて観察する力を高め、様々な表現の方法を例示することにより、多様な表現方法に触れ、自分に適した法を見付け、考えや思いを表現できるようにする。	・体験的な活動を行うときに、相手意識をもって活動できるように、ゴールを設定し、児童が意欲的に活動できるようにする。 ・体験活動では、地域や企業の方々を授業協力者として関わり、試行錯誤しながら取り組むことができるよう工夫する。